

# 幸さいはひひの いかなる人か

# 黒髪くろかみの 白しろくなるまで

# 妹いもの 声こゑを聞く

作者未詳(巻七・一四二)

年とし末すえが近ちかづき、喪さう中ちゆう きます。

のお葉書はがきが一通、また 夫婦ふうふで長なが生きするこ  
一通いつぽうと届とどきます。その ことを「共とも白しろ髪かみ」という  
記しされた享じやう年ねんに様よう々な ことがあります。この  
ことことが思おもわれます。

今回の歌は、『万葉 言葉ことば自体は新しいよう  
集しゆ巻まき』七の「挽歌わんか」に ですが、白しろ髪かみになるま  
収こめられた一首です。 で一いっ緒しょにいたい、とい  
題だい詞しはなく作者も不明 う表現は『万葉集』に  
ですが、この直前ちか前に配 いくつも見られます。  
列らされた歌々うたからみ 「わが黒髪くろかみのまま白しろ髪かみに  
て、妻つまに先ま立たれた男 成なりなむ極ごくみ新あらた世よに  
性せいの歌うたであると推定すいで 共ともにあらむと」(この  
黒髪くろかみがままっ白しろになる時

## やまと 万葉がたり

まで、新しい気持ちで 一緒にしようと／巻三  
一いっ緒しょにいようと／巻三 白しろ髪かみまでと結びてし  
・四八二)、黒髪くろかみの 心こゝろ(黒髪くろかみが白しろ髪かみにな  
るまでと誓ちかいあった心 〳〵十一・二六〇二〳〵)  
などです。現在より平 均寿命あゆみじゆうが短みじかかった当時  
において、白しろ髪かみになる まで、とは、命いのち尽つきる  
まで、と同じ意味合あい で用もちいられました。そ

してそれが叶かなわなかつ 多く見られるように、  
た時にこそ歌が詠よまれ 「幸さい」とは神かみによつて  
ているといえます。 もたらされると考えら  
今回の歌は倒置法たうぢはうを れていました。  
用もちい、「幸さいひのいかな らる人ひとか」を先にするこ  
とで、作者の心の叫こゝろび 「妹いもの声を聞く」で閉  
がままっすぐに伝つわりま とは親おやしい女性にょせい、ここ  
す。「幸さいひ」の動詞形どうしじけい では妻つまを指さします。そ  
「ときはず」が祝詞いのちに の「声を聞く」ことこ

〳〵訳〳〵どれだけ幸せな人なのか。黒髪くろかみが白しろく  
なるまで妻つまの声を聞きけるといふのは。

それが、作者にとつての  
「幸さい」だったのでしょ  
う。『万葉集』では「聞  
く」歌うたより「見みる」歌  
のほうがずっと多い  
中なか、「声を聞く」と歌  
いおさめるように、  
作者の奥感おくかんがこめられ  
ている気がします。  
日本は「言葉ことばの幸さいは  
ふ国ふくに」(言葉の靈力れいりきが  
栄さかえる国／巻五・八九  
四)です。新たな年としに  
むけ、幸さい多たかれと願ねがい  
ます。  
(県立万葉文化館主任  
研究員・阪口由佳)